



呼吸器外科部長  
**一瀬 増太郎**

いちのせ・ますたろう ●1990年に滋賀医科大学医学部を卒業。日本呼吸器外科学会認定呼吸器外科専門医、日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医、日本外科学会認定外科専門医など



ハイビジョンカメラを備えた  
胸腔鏡下手術システム



山科区で唯一放射線治療装置を備えている

【診療科目】内科、精神科、神経内科、消化器内科、心臓内科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科、アレルギー科、小児科、小児外科、心療内科、産婦人科、形成外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、麻酔科（荒木和邦）、形成外科、肛門外科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、小児歯科、頭頸部外科、乳腺外科、血液内科、糖尿病内分泌内科、腎臓内科、感染症内科、救急科、病理診断科、矯正歯科、肝臓・胆のう・膵臓外科、放射線治療科、緩和ケア内科

【許可入院患者数】595人

【診療時間】月～土 8:30～12:00 / 13:30～17:00

【休診日】日・祝

〒607-8062 京都府京都市山科区音羽珍事町2

TEL.075-593-4111 (代) <http://www.rakuwa.or.jp/otowa/>

## 肺がんを中心とした 呼吸器疾患の治療

洛和会音羽病院では、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に合わせて、「高度急性期病院」となることを目標として掲げている。その実現に向け、マルチスライスCT、PET・CT、3・0テスラMRI、放射線治療装置といった機器の導入や、施設基準の取得など、がんや重症例に対する高度医療を提供できる体制を整えてきた。その中で重要な分野の1つとして、呼吸器疾患への治療が挙げられるだろう。肺がんが日本人男性のがんによる死因第

一位を占め、高齢化に伴って肺炎が全体の死因第3位になっている（厚生労働省平成24年人口動態統計）今、充実した呼吸器診療が地域において欠かせないものとなっているのだ。同院では、呼吸器外科の一瀬増太郎部長を中心として、呼吸器疾患の診療体制を拡充させてきた。特に肺がん治療に力を入れており、手術や抗がん剤治療、放射線治療、術前術後の呼吸器リハビリテーションなども含め、呼吸器外科と呼吸器内科が協力して院内で完結する医療を実現。「肺がん治療では積極的な治療と並行して緩和医療を受ける方が

多くいらっしゃいます」として、緩和ケアも院内で積極的に提供するほか、術後肺炎の予防につながる口腔ケアを行うために、歯科医療にも力を入れている。胸腔鏡下手術などで早期退院を目指す

「呼吸器外科に携わって2年以上経ちましたが、その間に医療の進歩とともに手術の傷はどんどん小さくなり、侵襲の少ない肺がん手術が普及してきました。当院でもその流れに合わせて、患者さまが早期に退院できる治療を心がけています。」そう語る一瀬医師は、症例に応じて胸腔鏡下手術を積

極的に選択しており、ハイビジョンカメラで精細な画像が得られる最新の胸腔鏡システムを活用しながら5分程度の切開での治療を行っている。術後の胸水などを排出するための管（胸腔ドレナージ）の留置期間を短縮していることもあり、胸腔鏡下手術を受けた患者は、4～5日での退院を目指すことも可能だ。また、進行肺がんによる急な呼吸不全などを24時間体制で受け入れる「がん救急」に対応できる点も、患者の安心感につながるだろう。

同院では、院内でPET検査が受けられる利点を生かしてドック検診やがん検診を提供すると共に、クリニックと提携しての禁煙指導など、肺がん予防にも力を尽くしている。「肺がんを治療するためには早期発見

が重要ですが、なかには半年くらいで急速に進行するケースもあります。それだけに禁煙を含めた予防もまた大切です」と一瀬医師は訴える。



第三次救急機関(救命救急センター)として地域医療を担う

手術創の小さい胸腔鏡下手術やがん救急などを実践して負担の少ない治療を目指す 洛和会音羽病院

# 早期退院も可能な肺がん治療など 重症例に対応できる高度な医療を提供